

令和3年度第2回斜里町総合教育会議議事録

I 開催日時 令和3年11月22日(水)
開会 午後4時00分
閉会 午後5時45分

II 開催場所 斜里町役場応接室

III 出席者

【構成員】

斜里町長	馬場 隆
斜里町教育委員会	
教育長	岡田 秀明
職務代理者	長谷川 宏文
委員	西原 重雄

【事務局】

総務部長	増田 泰
教育部長	馬場 龍哉
企画総務課長	松井 卓哉
生涯学習課長	菊池 勲

IV 内容

1 開会

2 町長あいさつ(要旨)

・臨時国会にて「子育て世帯への臨時特別給付金」について議論がされ、支給方法は自治体の判断に委ねられることとなった。町としては、できるだけ年内に10万円一括支給できるよう準備を進めている。

子育てにおける支援対策は非常に重要であり、そのためには現状を把握し、より具体的な施策をつくりあげなければならない。

・本日の会議では、次期総合計画の策定に向けた資料の説明を行う。人口動態等、今後の情勢変化を確認し情報を共有する機会になればと考えている。あわせて、様々な事項について皆様のご意見を伺いたい。

3 意見交換

斜里町の未来を担う人づくり。激動の時代の教育に必要なものは？

「次期総合計画策定に向けて一斜里町の抱える課題」

●質疑等

○町の課題と教育の取り組みについて

・長谷川職務代理者：人口減少とともに様々な課題が発生するが、斜里町の子どもにとって大切なことは、学力向上もさることながら「斜里を想う心」を醸成することだと考える。

ふるさとと心がつながっている教育に取り組むことで、将来斜里を離れることになってもふるさと納税や100㎡運動など、つながりが続いていくと思われる。

総合計画は10年間の計画だが、さらに未来、100年先を見つめた計画を考えていくことが大切である。

・町長：地元の良さに気づき、斜里への想いを根付かせていくための教育は重要であり、好んで選んで斜里町に住んでもらえるよう取り組んでいきたい。

今年度、中学校で「斜里町未来デザイン計画発表会」や、高校で「トークフォークダンス」などの授業を行っており、今後も地域資源や人材を活用した取り組みを行っていきたい。

・教育長：子ども自身が斜里での暮らしの良さを感じることができるかが重要であり、そのためには暮らしを楽しんでいる大人の姿を見せることが大切である。大人の背中を見て子どもは育っていく。

地域資源を教育に活用しているが、世界自然遺産の価値を子どもが理解しにくい状況にある。自然が豊かであることよりも、都会的であることに価値を見出す傾向にある。

自己肯定感を高められるような取り組みも必要である。国内の経済活動や社会的地位などが右肩下がり社会の中で生まれ育ち、さらにネガティブな情報がすぐに伝わる世の中だと、トライアルを躊躇してしまう。挑むことの大切さを教えていきたい。

・西原委員：斜里町は住むことにおいて魅力的な場所ではあるが、働く場所が無ければ人は集まらない。工場や事務職場など、企業を誘致できれば雇用が創出されるほか、テレワークオフィスなどもさらに推進できればと考える。

・町長：斜里という土地でなければできない事業であれば企業も来る可能性があるが、全国どこでも事業運用が可能であるものについては、斜里は距離的なリスクが大きい。

以前、町に大規模な工場が建設される構想があったが、近隣自治体を含め従業員を集められないという課題があり、断念した経過がある。いきなり大規模な事業展開よりも、現状に即して拡大していくものが望ましい。

○総合計画策定について

・長谷川職務代理者：策定にあたり、現状の課題を整理していくことは大切だが、町の良いところを認識し、発展させるための計画であることも大切である。

私が 20 代の頃、総合計画策定委員に選出され会議に参加したことがあるが、現状の問題点解決だけに終始してしまい、今後の未来に向けた議論とならなかったことがある。

・教育長：まちづくりにおいて、他自治体の「先進」事例だけではなく「先人」事例から学ぶことも大切である。友好都市である青森県弘前市は「りんご」「お城」「ねふた」など、自分のまちの良さや価値観がブレることなく歴史を紡いできている。

・町長：まちの「良いところ」と「課題解決」の交わった部分が計画策定におけるポイントとなる部分であると考えている。

町民の皆さんと意見交換し、行政だけでなく皆さん一人ひとりができることを考え、分かち合える計画となることを望んでいる。現状は現状としてしっかりと受け止め、斜里の未来を楽しく語り合いながら取り組みを進めたい。

5 閉会 午後 5 時 45 分